

な た で ら しょいん く り
那谷寺 書院及び庫裏

種 別	重要文化財 建造物
指定年月日	昭和28年11月14日
所 在 地	那谷町（那谷寺）

書院・庫裏は、金堂の横に位置し、本堂など他の建物に先立つ寛永12年（1635）に建てられたものである。その後那谷寺の庫裏として一部改築されたが、昭和35年に復元工事を行い、創建当時の書院としての姿を今に伝えている。

書院は御成間を中心に5室から構成され、部屋は全て京間造りとなっており、山上善右衛門の一統による建築と推定される。

御成間には床の間と、その左側に違い棚が設けられ、北側と西側には鞘の間と呼ばれる畳敷きの廊下が巡らされる。また鞘の間は通称「家老の間」とも称される。御成の間の東には「装束の間」とも称する琴の間が、南側には仏間、8畳2間続きの対面の間、囲炉裏の間が並ぶ。

建物西の玄関は土間で、南側には大戸が、北側には通用口がある。天井は当時としては珍しく漆喰を塗りこめた壁天井となっている。

江戸時代初期の書院建築の姿を現在に伝える貴重な建造物である。



※写真は庭園より御成りの間を望む。